

福島市特色ある幼児教育・保育プロジェクト

プロジェクト名

『福島のかだものに親しむフルーツ保育』

施設名

学校法人ルンビニー学院 福島ルンビニー幼稚園

提出日

令和3年4月5日



1. プロジェクト

「福島ルンビニー幼稚園

フルーツ保育」の目的

フルーツ保育とは、くだもの王国福島市で採れる多くのフルーツを育て、福島のくだものに親しむ保育です。

園内に造成したフルーツガーデンに福島を代表する9種類14本の苗木を植え、それぞれの木の成長を観察します。春には花が咲き、夏には実をつけ、秋には収穫します。そして、大きく実ったそれぞれのくだものを食事の時に各クラスで食べて食味を楽しみます。

くだものをおいしく味わいながら園児たちは、福島で沢山のくだものが採れていつでもおいしく食べられることに感謝し、福島を大好きになってもらいます。また、収穫までの間には、くだものの木の手入れをしてくださる指導員の方から話を聞いて、ひとつのくだものが大きくなるまでには大変な仕事があることを知り、どのくだものも無駄にせず大切においしく食べることを学びます。

特に年長児の園児は、フルーツガーデンで見た成長の記録やくだものの絵を観察ノートに描いて記録にとどめます。



2. フルーツガーデンに 植えられたくだものの種類

福島ルンビニー幼稚園フルーツガーデンに植えられたくだものの木はすべて福島を代表し身近にあるくだものです。大きく育っていて実をつける木やこれから大きくなる小さい植木などありますが、どれも観察することでくだもののが好きになってくれます。

フルーツガーデンに植えられたくだものの植木は次の9種類14本です。

1. 桜桃さくらんぼ (佐藤錦、紅秀峰)
2. 桃もも (川中島、あかつき)
3. ブルーベリー (ノースランド)
4. 葡萄 (巨峰)
5. 梨 (豊水)
6. 柿 (富有、蜂屋)
7. 栗 (丹沢)
8. 李すもも (秋姫)
9. リンゴ (ふじ、王林)

※苺 (とちおとめ) も植えてあります。



3. 子ども達のくだものに対する意識の変化

どんなくだものでもいつでも、どこでも自由に手に入り食べることができるため、特別に気を付けることがなかった園児たちに、くだものに対する意識の変化を見ることができました。

フルーツガーデンは保護者の送迎用駐車場の脇にあり、登園・降園時に植木を見ることができます。それぞれの木の下にくだものを紹介するプレートがついていますが、きれいなくだものの写真の他、名前、産地、特徴などが書いてあります。関心の強い保護者はプレートを子どもに読み聞かせ、フルーツの名前を教えている姿を目にすると、福島で生活する人たちのくだものへの愛着の強さを感じました。園児たちも福島の中の身近な所で育てられている沢山のくだものがあることに気付いて、今までと違った福島の良さを実感したと思います。



4. くだものを育てることで 学んだ実例

9種類14本の苗木の中で、桃・リンゴはすぐに実をつける大きい木のため7月ころから実をつけました。だんだんと大きくなり、色づいてくるのを見ていて、もうすぐ収穫、そして食べることへの期待がふくらむ中で、くだものが食べられていることを発見、被害がでました。くだものを食べたのは空を飛ぶ鳥と、地上を動くハクビシンです。食べられたくだものを見て園児は指導者から袋を掛けて保護する方法やネットを張って近づけないようにすることを学び、また、動物も食べたくなるのがおいしいくだものであることを知りました。何気なく食べているくだものも、農家の人たちは被害にあわないよういつも大事に注意を払っていることを知ったのも大きな学びでした。



5. くだものを食べることから 学んだ実例

フルーツガーデンの中で食べることができる実をつける木は、桃とリンゴです。園児たちは大きく育った実を食べることへの期待がありますが、収穫量が少ないため全園児が食べることができないため、近隣の農家からくだものを調達し、全園児が食べます。令和2年度は桃、梨、リンゴ、柿を昼食時提供し、すべて福島で育ったことを知らせます。くだもの実を実際に見て名前を覚え、皮をむき食べやすくなる仕方も先生から教わりました。また、ぶどうは粒ごと丸のみすることの事故が起きているため、食べ方の注意も喚起しました。

くだものを食べることで学んだ一番大切なことは、一切れのくだものを食べるまでに1年もの長い時間と、農家の人たちが愛情と丹精を込めて作ったことを知り、どんなくだものも大事にしなければならないこと、好き嫌いをなくすことにつながるよう指導しています。

